

指定管理者総合評価シート

様式 4

施設名	成田市のぞみの園		
指定管理者	社会福祉法人 大成会		
指定期間	平成 29 年 4 月 1 日	～ 平成 34 年 3 月 31 日	1 年目
施設所管課	福祉部	障がい者福祉課	

評価項目	評価基準	自己評価	所管課評価	
I 実施体制に関する評価	施設管理	協定書等に従い、開館日や開館時間等を遵守しているか	A	A
	人員体制	仕様書等に従った人員(人数、有資格者)を配置しているか	A	A
		スタッフのシフトは適正であるか	A	B
		事業計画書に則した内容・頻度で教育・研修を実施したか	A	A
	利用料金	利用者からの料金徴収や現金管理等が適切に実施されているか	A	A
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切か	A	A
		外部委託事業者に対して協定書等を遵守させているか	A	A
	記録管理	業務日誌等を適切に作成・保管しているか	A	A
		点検、修繕等の履歴を適切に整備・保管しているか	A	A
	報告書提出	協定書等で定められた事業計画書・報告書等は提出しているか	B	A
	連絡調整	市や関係団体等との連絡調整を適切に行っているか	B	B
	危機管理	危機管理に関するマニュアルが整備され、定期的に訓練等を行っているか	A	A
		避難経路は適切に確保されているか	A	A
		事故、災害等の緊急時の連絡体制が確立されているか	A	B
	個人情報保護	個人情報等の管理は適切か	A	A
		個人情報保護に関する規程が整備されているか	A	A
		情報漏えいを防止する仕組みや対応策が構築されているか	A	A
	情報公開	情報公開に関する規程が整備されているか	A	A
		協定書等に従い、情報を適切に管理しているか	A	A
その他				
【総括 I】	実施体制の履行状況に関する評価(標準 19 項目・本施設 19 項目)	A		
指定管理者の自己評価	協定書、仕様書等に従って滞りなく施設運営を行うことができた。夏ごろ、2件ほど園内での利用者のけががあった際に、市への報告が遅れてしまったが、その後は「まず市へ一報を入れる」ことを心がけ、1～2月にインフルエンザが流行した際には市、保健所と連絡を取り対応することができた。			
施設所管課の評価	事故報告については、遅滞なく市に連絡するとともに、千葉県のお知らせに基づき適切に処理を行うことを徹底されたい。また、職員の配置等により、自主事業のフルーツスタジオを平成29年末から休止しているため、職員の配置及び業務のバックアップ体制等について見直しの必要があると思われる。			

評価項目	評価基準	自己評価	所管課評価	
II サービスの内容や水準に関する	利用者対応	施設の予約や利用等が、公平かつ適切に実施されているか	A	A
		言葉遣い、態度、服装等の接遇は適切であるか	A	A
	利用案内	ホームページは計画どおりに運用されているか	A	A
		利用方法をわかりやすく説明できる仕組みが構築されているか	A	A
	利用状況	施設の利用者数や稼働率は適正であるか	B	B
		利用促進に向け、積極的に取り組んでいるか	A	B
	事業の実施	事業計画書に則し、指定事業を実施しているか	A	A
		施設の目的に沿って、自主事業を実施しているか	A	A
		各事業の参加者数は、計画どおりであるか	A	A
		参加促進への取組を積極的に実施しているか	A	A
	環境への配慮	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされているか	A	A
	苦情等の対応	苦情や要望等に対して迅速かつ適切に対応しているか	A	A
	利用者への調査	利用者満足度調査を実施し、その結果は妥当であるか	A	A
		利用者からの意見や要望等について、可能なものは反映させているか	A	A
	維持管理	施設、設備の保守管理(点検・修繕)、定期清掃を計画的に実施しているか	A	A
		日常の清掃、保安、警備は適切に実施しているか	A	A
		備品台帳により記録が適切に保管されているか	A	A
		市と指定管理者の備品が明確に区別されているか	A	A
	その他	必要な修繕を適切に行い、市に報告しているか	A	A
【総括 II】	サービス等の内容や水準に関する評価(標準 19 項目・本施設 19 項目)	A		

指定管理者総合評価シート

様式 4

評価	指定管理者の自己評価	今年度は、利用者48名で定員割れのスタートとなったほか、冬場のインフルエンザ流行、降雪などが重なり、年間の出勤率(稼働率)が89.7%と昨年度より更に下がってしまった。しかし、出勤率向上、利用者獲得のため職員が一体となって取り組み、利用者数を年度末には53名に増やし、3月単月の出勤率は96.1%まで回復している。
	施設所管課の評価	年度末には利用者数が53名となったものの、年度当初の利用者数が定員50名を割っている。今年度から特別支援学校等に通う生徒とその保護者を対象とする施設体験会を新たに開催しているが、利用者の確保に係る取組を継続する必要がある。

評価項目	評価基準	自己評価	所管課評価	
Ⅲ 收支等に関する評価	経理事務	指定管理に関する経費と団体の経費を区別して、適正に管理しているか	A	A
		専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理処理を行っているか	A	A
		料金徴収、減免、還付の手続は適切に処理していたか	A	A
	予算執行	収支計画書に則し、適正に予算を執行しているか	A	A
		収支計画と事業計画の整合はとれていたか	A	A
	経費節減 その他	経費削減に向けた取組を積極的に実施し、その効果が上がったか	A	A
【総括 Ⅲ】	收支等に関する評価(標準 6 項目・本施設 6 項目)	A		
指定管理者の自己評価	事業収入を増やすべく、出勤率の向上、利用者獲得、休日営業の実施など努力をしたが、大幅な収入増にはならなかった。経費削減にも昨年度同様に取り組み、大幅に予算を超えるような出費はなかった。30年度は更に事業収入を上向きにしていけるべく、出勤率の向上、新規利用者の獲得に努めていきたい。			
施設所管課の評価	收支等に関しては概ね適正に管理、執行されているが、経費率が72.3%(経費(就B事業支出額50,114,729円-工賃支出額36,252,217円)÷就B事業支出額50,114,729円)で、総売上も若干の減(平成28年度売上額: 48,359,091円)となったことから、増収及び経費の削減を達成できるように努められたい。			

評価項目	評価基準/目標は達成されたか	数値目標	自己評価	所管課評価	
Ⅳ 目標管理に関する評価	目標①	利用者の工賃配分金を支払うために必要な売上の確保 (平成29年度 利用者50名想定 総支払額14,100,000円)	総売上目標47,000,000円(経費70%以下)	B	A
	目標②	利用者の月額平均工賃目標達成。	月額23,500円	A	A
	目標③				
	【総括 Ⅳ】	目標管理に関する評価(標準 2 項目・本施設 2 項目)	A		
指定管理者の自己評価	目標①(利用者の工賃配分金を支払うために必要な売上の確保 平成29年度 総売上目標47,000,000円 経費70%以下)については、総売上47,325,722円 経費72.3%で、経費は目標を達成できなかったが、利用者の工賃配分金は目標額を支払うことができた。 目標②(利用者の月額平均工賃目標達成 月額目標23,500円)については、年度末に支払った賞与も含めて月額平均工賃23,535円を支払うことができ、目標を達成した。				
施設所管課の評価	目標①については、総売上については目標金額に達したが、経費率が目標を達成できなかった。経費率は材料費等に影響される可能性があるが、経費削減に努め利益を確保し、工賃の向上に繋がれるよう努める必要がある。 目標②については、千葉県内の就労継続支援B型事業所の平均工賃(平成28年度データ 月額のみ)の平均額 14,255円、時間額を含む全体平均額 13,769円)を大きく上回っており、利用者の意欲向上に寄与している。				

V	【総合評価】	I～Ⅳの総括による総合評価	A
---	--------	---------------	---

VI 特	特に評価される点	月額平均工賃が23,535円で目標を達成するとともに、千葉県内の就労継続支援B型事業所の平均工賃(平成28年度データ 月額のみ)の平均額 14,255円、時間額を含む全体平均額 13,769円)を大きく上回っている。
---------	----------	--

記事 項	改善が望まれる 点	事故など特に報告すべき事項については、遅滞なく市に報告することを徹底する。また、職員のバックアップ体制等を見直し、休止している自主事業のフルーツスタジオを早期に再開する。
---------	--------------	---